

知財を武器に競争力強化とブランディングを展開！

本 社 〒106-0044 東京都港区東麻布1-25-5 VORT麻布イースト2階

U R L <https://www.cardio-i.com/>

業務内容 AIを用いた自動診断システムの研究・開発・製造・販売等

設 立 年 2019年 **資 本 金** 8億6512万円（資本剰余金を含む）

AIを活用した診断補助サービスを手掛けるスタートアップ。心臓病診断支援を目的とする医療機器の開発に取り組み、医療現場のニーズに応える実用的な製品を提供することで、心臓病の早期発見を始めとする医療の質の向上を目指している。



波多野薫 R&D室長

■ 相談のきっかけ

同社は、AI×医療をコア技術として診断補助サービスを手掛けるスタートアップであり、心臓専門医不足の医療現場をサポートすることで、心臓病の早期発見・治療に向けた環境整備を目指している。特に、同社は、脳梗塞の主な原因とされる心房細動を高い精度で自動検出する長時間心電図解析ソフトウェアを多数の医療機関へ提供しており、国内外で複数の関連特許を取得している。

一方、新事業分野の技術開発や、パートナー企業との海外事業提携を画策する中、共同研究開発契約等の契約・交渉リテラシーの向上が同社の喫緊の課題であった。また波多野R&D室長は、知財の出願・権利化だけでなく、知財活動全般を通じて、総合的に企業価値の向上を図っていききたいと考えていた。

そのような状況下、INPITのスタートアップ知財支援窓口を知人から紹介され、知財戦略エキスパート（以下「知財EX」）による支援を受けることになった。



同社の長時間心電図解析サービス「SmartRobin」



知財EXは、契約の締結プロセスと留意事項について、逐条解説付のOIモデル契約書（特許庁作成）を用いつつ社内勉強会を開催し、実務ベースでの具体的な支援を進めた。典型的な内容だけでなく、例えば相手方と交渉する際に重要となる事前のビジネス調査や、交渉チーム編成の仕方などの“交渉術”についても、知財EXは知識と実体験に基づく助言を実施。同社の理解が深まり交渉力の向上につながった。

（2）エンジニアの知財戦略に関する知識の向上

同社が、特許権利化を意識して発明活動を行う体制を構築し、発明申請の社内プロセスを定着させるためには、エンジニアに対する知財教育が求められた。知財EXの紹介により、同社は特許庁産業財産権専門官による知財基礎セミナー等を積極的に活用したことで、社内知財人材の育成が進展していった。

（3）知財の对外発信による企業PR

知財を効果的に对外発信できれば、自社の技術力やオリジナリティをアピールでき、ブランド価値の向上や収益性の確保につながる。知財EXは、同社の知財活動とその成果を分かりやすく効果的に对外発信する手法を説明するとともに、スタートアップの優れた知財活動を表彰する「IP BASE Award」（特許庁）を紹介し、同社が実際に応募した。

その結果、「医療×AIという成長性が高い分野で、知財を活用した標準化、事業成長を進めている点」が審査員に高く評価され、2025年2月、同社は第6回「IP BASE Award」スタートアップ部門の「奨励賞」を受賞するに至り、1つの大きな对外アピールの成功につながった。

■ 知財EXの支援内容

（1）知財リテラシーと交渉力の向上

知財EXは、同社の経営方針や知財動向の詳細をヒアリングすることで課題事項を整理し、同社がコア技術（心房細動AI解析）に関する他社との協業について取り組めるよう、契約マネジメントに関する支援を優先的に行うことにした。

支 援 企 業 の 声

知財EXの方には、契約・交渉術のセミナーをはじめ、ご経験に基づく深い洞察やライセンス交渉での実践的な知見を含めてご助言を頂き、大変勉強になりました。また、奨励賞を頂いたIP BASE Awardについては、知財EXの方からご紹介頂かなければ応募すら思い及びませんでした。常に弊社ニーズにマッチしたご支援を頂き感謝致しております。（R&D室 室長 波多野 薫氏）

知 財 戦 略 エ キ ス パ ー ト の コ メ ン ト

同社では、知財を重要な経営資源として位置づけ、スタートアップながら、知財担当者・知財担当役員を設けて計画的かつ実効的な知財戦略を展開しています。また、同社は、事業での具体的な活用シナリオを描いた上で国内外での知財取得を進めるとともに、組織的な知財人材の育成を進めており、知財が益々の事業成長に大きく貢献していくことでしょう。（知財戦略エキスパート 広瀬勇一）